

## ■自由投稿

### 「みんなちがって みんないい」

池田喜美代(19期)

20歳の冬、松江に帰省していた私は、友人とお茶をして帰宅するところだった。友人と会うのが久しぶりだったこともあって話がはずみ、夕方になっていた。楽しい時間に少し気分が高揚していたのだろう、京店通りにさしかかったところで、辻占いのぼうつとした灯りに吸い寄せられるように近づき、左の手の平を差し出していた。

私は占いやおみくじのたぐいは嫌いだ。なんか気にしてしまうからいつも素通りする。けれど、あの時は違っていた。辻占いに言われたことの大半は忘れてしまったが、最後の「あなたは晩年が良くなりますよ」の言葉はずっと記憶の片隅に残っていた。

私には孫が5人いる。大阪の池田市に住む長男に2人、富山市に住む二男には3人、それぞれ個性豊かに育ってる。コロナになってから会うことが難しくなったが、その分家族LINEで動画やメールが送られてくる。昨年も次々と楽しいニュースを届けてくれた。

8月には、富山市の中3の孫(長女)が、北信越中学校総合競技大会の女子200メートルに出場し僅差で4位になった。11月には、小6の弟が、富山県小学生プログラミング大会の代表12人(組)に選出され、堂々とプレゼンテーションと質疑応答をやっただけ、優秀賞を受賞した。小3の弟は、ときたま憶えたての英語を交えて電話をかけてきて驚かされる。

一方、池田市の中1の孫(長女)は、12月に大阪府私立中学校読書感想文コンクールで佳作に選ばれた。「みため」という表題で、選んだ課題図書は芥川龍之介「羅生門・鼻」という。小5の妹は、k-p-o-p好きでダンスが得意でとにかく明るい。

8年前になる。8月に父が亡くなり、私は父のことを書いて朝日新聞の「声」欄に投稿したら9月に掲載された。ほどなくして松江の従姉から「読んだよ」と連絡があり、さらに驚いたことに、大津市に住む北高の同窓生から同様のはがきをいただいた。そして末尾に「中学生の時に、あなたが読書感想文で表彰されたことを憶えていますよ」と添えられていた。彼女とは小中高と一緒にいたが特に親しかったわけではなく、50数年を経て当の本人の記憶もあいまいだったのに、私のことや読書感想文のことまで憶えていて便りまでくれるなんて、突然のことに戸惑ってしまったがすごく嬉しかった。

中1の孫の姿は当時の私のそれと重なるが、私の表題はあの頃ブームだった「愛と死をみつめて を読んで」だったので、孫の「羅生門・鼻」とは隔世の感がある。

LINEが届くたびに「やったね すごいね」と返信しているが、ただどの孫も結果として一番にはなれていないところが「何事もほどほどがいいとする私の孫らしいな」となんとなく納得する。でもそれは、孫には大変失礼な話でまだまだ伸びしろがあるということにしておこう。

私はもう少しすると晩年の域に入るのだろうか。私の手相は年月を経て皺も増え変化してきているはずだ。ただあの時の辻占いの一言「晩年は良くなりますよ」はずっと心に残って、落ち込んだ時も悩んだ時も「私の晩年は良くなる 良くなる」と繰り返し思うことで乗り越えてきた。いつしか、身近な孫たちがわくわくドキドキ感を私にもたらしせてくれていることもそのことではないかと思っている。今年も何かサプライズがあるかもしれない。

今は息子のふるさと納税の返礼品が届くとのことで、ご相伴にあずかることの楽しみが待っている。こちらの5品目は「みんなちがって みんなおいしい」